

ザンビア南部州の村落における暮らしと土地利用 —女性たちによる製品の生産と売買を事例に—

宮下 昌子

キーワード：世帯収入、土地利用、製品の売買、ザンビア、野菜畑、女性の役割

1. 背景と目的

農村部での地域開発支援事業において、海外の援助団体、現地政府およびNGO/NPOなど諸機関は、メイズやキャッサバなどの主要食用作物の増収支援などに関心を置くことが多かった。また、これら諸機関やそこに従事する者は、雨季のメイズ作や綿花作が農村部での主生業であると見做してきた。一方、フィールド調査から、ザンビア南部州の対象村落では、雨季のメイズ作や綿花作のみならず、乾季の野菜作や疎林での有用植物の採集などが活発に行なわれ、暮らしや生業活動のなかで女性の果たす様々な役割が見えてきた。本研究の目的は、ザンビア南部州の対象村落において、特に女性が多くを担っている乾季の野菜作と製品の売買の実態を明らかにし、よりの確な地域理解に資することにある。

2. 調査地の概要

ザンビアは、南部アフリカに位置し、乾季（4月-11月）と雨季（12月-3月）を持ち、年平均降水量は700mm-1000mmである。中でも、年平均降水量700mmの南部州は、一般に「干ばつ常襲地帯」と呼ばれている。実際には、ザンビア南部州の年平均降水量は700mmをはさんで大きく変動しており、多雨年には洪水や過湿害、少雨年には干ばつが起り、農耕を営むには不安定な水文環境にある。本研究では、南部州の4村落（マラバリ村、マポブウェ村、ムウェンバ村、シアチャヤ村）を調査対象地とした。

3. 人々の暮らしと土地利用

右図に見るように、雨季作は、尾根と小河川にいたる斜面地で主要作物であるメイズや綿花、サツマイモの栽培が行なわれる。家族総出で作業にあたり、さらに、女性は食事や水くみ、掃除などの家事労働を担っている。一方、乾季作は、小河川沿いに位置しているため雨季に洪水や過湿害で利用できなかった畑において、川や地上に湧出する水を利用してメイズや野菜（例えばセイヨウアブラナ、キャベツ、トマト、タマネギ）の栽培が行なわれる。野菜畑の管理は主に女性が担っている。

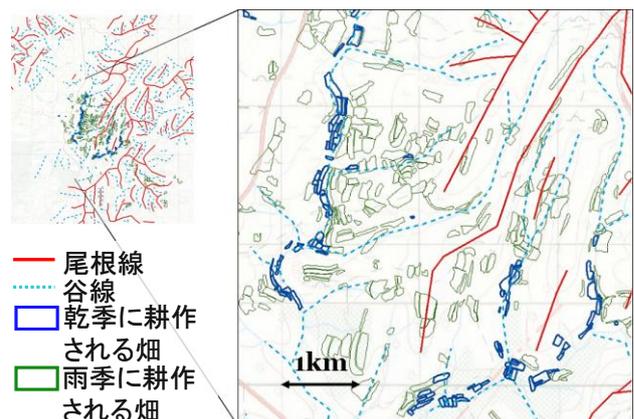


図 シアチャヤ村の土地利用図

4. 製品の売買と女性の役割

調査村では、年間を通じて35種類の製品を得ており、特に乾季の野菜畑で収穫できる製品の種類が多かった。また、村人は様々な現金収入源を持ち、野菜から得られる現金が世帯の全現金収入の中で一番大きな割合を占め、次に季節労働が続いた。さらに、女性は日常生活の様々な場所（市場、教会、学校など）を利用して、市場だけではなく村の中でも製品の売買による現金収入の獲得へとつなげていた。

女性を中心に行なわれるこのような活動は、日常生活を維持し世帯の現金収入を得るために重要であり、地域開発支援を行う上でも注目すべきことであることがわかった。1年を通して栽培採集される様々な製品やその現金収入源は、世帯レベルや村レベルにおけるレジリアンスの付与に貢献するものといえる。